

第3回 館林市立学校適正規模・適正配置 検討委員会（北・西・南地区共通）

報告資料集

報告資料1 (P.1～) … 第2回北地区検討委員会意見集約

報告資料2 (P.7～) … 第2回西地区検討委員会意見集約

報告資料3 (P.10～) … 第2回南地区検討委員会意見集約

第2回北地区検討委員会意見集約

【1. 小学校について】

No.	意見概要
1	状況が大きく変化してしまう前に、来年度など可能な限り早期に学校の統合を進めるべき。
2	学校再編を機に子どもたちの学力向上を図ることを、保護者の願いとして、今後の検討事項に含めてほしい。
3	一小と九小の統合、三小と四小の統合を考えてはどうか。
4	二小は小さいエリアだが、ある程度規模を維持しているので、増やす工夫をすれば適正規模になるのではないかな。
5	過去に東小学校と郷谷小学校が統合した際、見知った先生も一緒に異動してきたことで安心感があり、子どもにとっては友達や遊びの範囲が広がるなど、プラスの面が多いと実感した。
6	三小学区の子どもが小規模特認校の四小へ通学しているが、今回の学校再編によって三小と四小が統合すると小規模特認校の意味がなくなるのではないかな。(意見シートより)
7	複数の学級のメリットについては、教員数が確保できるため教科担任制を導入しやすく(中学校へのギャップ軽減)、また、複数の教員が児童に関わることで「担任と合わない」リスクを回避し、多面的に子どもの良さを引き出す高い教育効果が期待できるのではないかな。
8	小規模校のメリット・デメリットを聞いて、先生からすれば人数が多い方が良い環境だというのは理解した。
9	四小と九小を統合し小規模校として残す。少なくなってきた時に一小や三小と統合するかを考える。(意見シートより)
10	一小と九小を統合し一中へ。二小と三小と四小を統合し二中へ。ゆくゆくは中学校に近い学校に寄せていくイメージが良い。ハザードマップ等も参考にしたい。一小と九小の統合では、一小に統合するとして教室数は足りるのかな。(意見シートより)
11	一小(単独)、二小と三小、四小と九小を統合。一小(単独)、二小と三小の再編後は10年後でも300人以上維持できるのではないかな。(意見シートより)
12	一小と九小を統合し、二小と三小と四小の統合で2つの小学校に分ける(令和14年で見ると1校500人程度で全学年20クラス)。小学校は教室数で見ると、一小と二小を残すのが良いかと思うが、現実的に見るなら一小と三小ではないかな。(意見シートより)
13	二小は現中学校地区で分ける(地区で学区が分かれる)。(意見シートより)
14	四小は残しても良いのではないかな。学区というより、不登校の生徒や小規模校を希望する子どもの受け入れ先にはできないのかな(ふれあい学級で受け入れている児童生徒を受け入れる学校)。(意見シートより)
15	4、5年かけて統合するのであれば、来年度の小学校1年生から三小と四小は統合するなど、少しずつ進めていけないのかな。(意見シートより)

16	一小と九小を統合し、二小と三小を統合。四小はそのまま小規模特認校。(意見シートより)
17	一中と二中はそのまま。四小と二中については小中一貫校にして適正規模を保つ。中1ギャップの解消には小中一貫校は有効だと思う。(意見シートより)
18	議題資料 P.9 児童生徒数及び学級数の推移より、 H27 小学校児童数 計 1,523 人 → R19 計 822 人 H27 中学校生徒数 計 795 人 → R19 計 416 人 上記の人数推移を考えると、今後小学校は2校、中学校は1校に統合するのが望ましいのではないかと。(意見シートより)

【2. 中学校について】

No.	意見概要
1	二小学区としては中学校区域の変更と見直しが必要ではないか。(緑町や松原の子どもが多くが四中へ行っている。)
2	小規模校のメリット・デメリットを聞いて、先生からすれば人数が多い方が良い環境だというのは理解した。(1-No.8 再掲)
3	二小学区最西に位置する富士見町は現在一中に通学している。各中学校への距離には差があり、再編によって遠方の中学校へ指定された場合、自転車通学の負担や安全面への不安から私立中への進学を検討する保護者がいるほど切実な問題となっている。立地的に特殊な富士見町区はある程度中学校が選択できると良い。
4	適正規模で考えると、一中は維持できるが、どうしても少なくなってしまう二中をどうするかということになる。
5	中学校は一つにまとめてもよいのではないかと(3学年なので、全学年で500人程度)。(意見シートより)
6	小学校は一小を残すのなら、中学校は二中にする(交通面を見ると、一小と一中は近いから交通面で危ない)。(意見シートより)
7	一中と二中はそのまま。四小と二中については小中一貫校にして適正規模を保つ。中1ギャップの解消には小中一貫校は有効だと思う。(意見シートより)(1-No.17 再掲)
8	議題資料 P.9 児童生徒数及び学級数の推移より、 H27 小学校児童数 計 1,523 人 → R19 計 822 人 H27 中学校生徒数 計 795 人 → R19 計 416 人 上記の人数推移を考えると、今後小学校は2校、中学校は1校に統合するのが望ましいのではないかと。(意見シートより)(1-No.18 再掲)

【3. 分散進学について】

No.	意見概要
1	富士見町地区は今区画整理中である。将来的には区画整理が解消されるが、新宿区を富士見通りのどこで分けるかも今後取り組んでいくことになる。
2	質問 二小は分散進学解消を希望している。解消するにあたり、なぜ現在のように二小が3つの中学校へ分かれて進学する体制になったのか教えてほしい。 回答 旧町村合併や人口急増期における周辺小学校及び中学校の新設・統合が行われたことが、現在の分散進学の一因と考えます。
3	分散進学は、新しい人間関係を築く良い機会にもなり得るため、必ずしも否定的な面ばかりではない。(意見シートより)
4	学級数を見れば四小は早めの対応が必要だが、現在の四小にある魅力をなくすのはもったいないようにも思う。(意見シートより)
5	分散進学や学区変更は各地区だけで決めるのは難しい。(意見シートより)
6	質問 学区の再編となった場合、現在通学中の児童生徒は転校になるのか、通学中ならそのまま通えるのか。その場合、兄弟姉妹が分かれる可能性もある。(意見シートより) 回答 具体的な通学方法等は今後の実行委員会で協議する内容となりますが、子どもたちの負担とならないよう、柔軟な対応を検討していきます。

【4. その他】

No.	意見概要
1	学校再編は子どもたちのためになるかどうかということを基本に置いて考えてもらいたい。
2	学校再編のシミュレーションは、少なくとも令和19年度までの長いスパンで検討する必要がある。
3	不登校の話、小規模特認校の話も議題に入れるべき。(意見シートより)
4	いじめや不登校などに素早く対応し、問題解決ができる学校の体制・環境づくりのためにたくさん教員を配置してほしい。それがこの適正規模・適正配置の趣旨だと理解した。
5	統合そのものへの不安よりも、子どもの安全・安心、学力保障、居心地の良い環境づくりといった、学校の指導体制や経営体制をしっかりと構築していくことが重要だと考える。
6	学校の子どもたちにもアンケートを取ってはどうか。(意見シートより)
7	小規模特認校制度のPRが少ないのではないか。(意見シートより)

8	次回のシミュレーションに通学方法、経路を含めて考えてほしい。(意見シートより)
9	質問 第3回で行うシミュレーションとずれてしまうとアンケートをしても仕方がない。アンケートは各学校が取るのか、それともPTAが取るのか。 回答 必ず実施するものではなく各学校や所属団体の必要に応じてお願いしたいと考えています。
10	小規模校のメリット・デメリットについて、単学級ではクラス替えができないため、いじめや人間関係のトラブルが起きた際に、物理的に距離を置くなどの配慮や環境のリセットが困難である。また、少人数ゆえに多様な価値観に触れる機会が減り、特定の子どもの意見に周囲が同調してしまうなど、思考や人間関係が固定化しやすい点も課題である。
11	小規模校のメリット・デメリットについて、小規模校は児童一人一人にリーダー等の活躍の場が多く与えられ、異年齢の縦割り活動が活発になるという良さがある。一方で、人間関係が固定化してトラブル時の修復が難しい点や、教職員の学校運営に係る業務負担が非常に大きい点が最大の課題である。
12	近隣市で導入事例がある小中一貫校等の新しい学校形態についても、並行して他地区と連携しながら検討を進めていかなければならないと思っている。
13	児童数減少に伴う予算の変化など、なぜ既存の学区を再編しなければならないのかという具体的な根拠、金銭的なシミュレーション等が不足しており、議論の内容がわかりにくいいため、詳細なデータを示してほしい。
14	学校の配置を検討する際には、施設や児童生徒数だけでなく、「どのような子どもでも学び続けられる学校」という視点も方向性の中に盛り込めるとより館林らしい学校づくりにつながるのではないかと。(意見シートより)
15	質問 次第2-(3) 多様な児童生徒への支援体制について、①ふれあい学級、②教育支援センターの支援体制では今後どのような方向性で充実を図っていく考えなのか。(意見シートより) 回答 ①では、令和8年度より学校とふれあい学級をつなぐコーディネーターを設置し、学校と支援の在り方を検討するコンサルテーション(助言)の充実を図っています。②では、教育支援センターにコーディネーターが訪問し、児童と交流する等相談体制の充実を図っています。今後もICTの活用や学校・フリースクールとの連携を通して様々な子どもたちに応じた居場所づくりを進めるため、更なる支援の充実を図っていきます。
16	基本方針では多様性や社会性の育成を重視していて、適正規模が示されている。自分の子ども小規模校に通い心配な点もあるが、自身の学区や自校の存続(残す・残さない)にこだわる議論をするべきではないと考えている。

17	保護者から広く意見を集めるためには、学校再編後の学校の場所やスクールバスの有無など、より具体的なシミュレーション情報が必要。
18	提示された具体案を基に、各学校や所属団体内でしっかりと情報共有やアンケート等を行うため、次々回以降の検討委員会の開催間隔（スケジュール）には十分な期間を確保するよう配慮をお願いしたい。
19	学校が適正規模になった方が良いのは全員理解している。具体的な案を挙げて議論できると良い。
20	富士見町は区画整理があると聞いたので、それに合わせて分けても良いのではないかと。（意見シートより）
21	統合したとして、保護者の役員の不安もある。（意見シートより）
22	館林市の交通状況に合わせた安心の通学方法を取り入れると良い。（意見シートより）
23	質問 これまでに近隣の自治体ではどのような取組が行われているかの調査や視察があったのか。都市規模や構成が似ているなどで参考になりそうな全国の都市の取組の調査や視察はあったのかどうかを知りたい。（意見シートより） 回答 令和7年度に先行事例である足利市と羽生市を視察、令和8年度に桐生市の実施計画に関わる説明会への参加を通じて、学校再編に係る具体的な進め方や課題、スケジュール等の情報収集を行いました。また、文部科学省の資料をはじめ、県内や近隣、本市と同規模自治体の公開情報を随時幅広く調査し、参考としています。
24	質問 今回の検討委員会では小学校、中学校は別々とするべきか。小中一貫校を新設することも考えて良いのかどうかを知りたい。（意見シートより） 回答 まずは基本方針に基づき、現状の小学校、中学校での再編を検討することとしています。そのために分散進学を解消し、義務教育9年間を見通した一貫性のある教育を目指します。
25	猛暑時の低学年の負担（熱中症など）を考慮した徒歩距離基準の見直しや、スクールバス導入時における部活動への対応など、実態に即した柔軟な通学環境の検討が必要である。（意見シートより）

【5. その他】（第 1 回検討委員会後、検討委員が各関係団体から吸い上げた意見）

No.	意見概要
1	熱中症や災害時の遠距離通学に対する不安が大きく、スクールバスや駐車場の整備、柔軟に学校を選べる通学特例ルールを導入、第三小学校の存続が求められている。
2	こども園、学童を最大限に活用し、子育て世代が集まる魅力的な地域づくりを進めることが要望されている。
3	多様な交友関係や学びの機会を広げるため、分散進学を解消し適切な統合を進めることには前向きな声が挙がっている。
4	スクールバスの導入や歩道フェンスの設置など猛暑や防犯、事故防止を見据えた安全最優先の通学路確保が必要。
5	送迎時の渋滞や事故を防ぐため、学校や園周辺の駐車場、道路環境の改善要望。
6	一人一人に目が行き届く良さを残すため、教員数を確保した少人数校を 1 校は残してほしいという意見もある。

第2回西地区検討委員会意見集約

【1. 小学校について】

No.	意見概要
1	小中学校の再編については、高校のことも考慮し、小中一貫や中高一貫について検討すべきではないか。
2	義務教育学校は、解決策の一つになると考える。(意見シートより)
3	自身が小学6年生のときに六小から十小に行くことになった。周りの子が「なぜ十小に行かなければならないのか」という感じであったことを思い出すと統合時期が難しい。
4	適正規模を下回ると、実技教科によっては免許外の教員に指導してもらう状況が生じる可能性がある。
5	義務教育学校を三中の中に作り、モデルケースとして七小を入れる。その後、人の流れを見たうえで、六小、十小を入れていくことも考えられる。
6	八小と多中は独立して存続できるのではないか。
7	2段階で統合のシミュレーションをしてもらいたい。①十小の小学校区を三中と多中の学区で分け、六小と七小と十小の半分で小学校1校、八小と十小の半分で小学校1校とする。②令和19年頃に六小と七小と十小の半分と三中で統合して小中一貫校とし、八小と十小の半分と多中で統合して小中一貫校にする。
8	七小と八小が統合するのは遠すぎるのではないか。
9	八小と多中は独立して維持できると思う。
10	三中は空き教室がたくさんあると思うのでそこで小中一貫校をやるのが良いのではないか。
11	十小の小学校区は三中と多中に分けて、全員が三中か多中に進学したほうが良いのではないか。
12	十小の小学校区を三中と多中の学区で分けると良いのではないか。(意見シートより)

【2. 中学校について】

No.	意見概要
1	小学校の学区見直しに応じて中学校の学区も検討しなければならない。
2	小中学校の再編については、高校のことも考慮し、小中一貫や中高一貫について検討すべきではないか。(1-No.1 再掲)
3	義務教育学校は、解決策の一つになると考える。(ご意見・ご質問シートより)(1-No.2 再掲)
4	適正規模を下回ると合唱コンクールがつまらなくなってしまう。
5	適正規模を下回ると、実技教科によっては免許外の教員に指導してもらう状況が生じる可能性がある。(1-No.4 再掲)

6	義務教育学校を三中の中に作り、モデルケースとして七小を入れる。その後、人の流れを見たい。六小、十小を入れていくことも考えられる。(1-No.5 再掲)
7	八小と多中は独立して存続できるのではないか。(1-No.6 再掲)
8	2段階で統合のシミュレーションをしてもらいたい。①十小の小学校区を三中と多中の学区で分け、六小と七小と十小の半分で小学校1校、八小と十小の半分で小学校1校とする。②令和19年頃に六小と七小と十小の半分と三中で統合して小中一貫校とし、八小と十小の半分と多中で統合して小中一貫校にする。(1-No.7 再掲)
9	地域性を考慮し、将来的には三中と四中を統合することも検討する必要もあるのではないか。(意見シートより)
10	八小と多中は独立して維持できると思う。(1-No.9 再掲)
11	三中は空き教室がたくさんあると思うのでそこで小中一貫校をやるのが良いのではないか。(1-No.10)
12	十小の小学校区は三中と多中に分けて、全員が三中か多中に進学したほうが良いのではないか。(1-No.11 再掲)
13	十小の小学校区を三中と多中の学区で分けると良いのではないか。(意見シートより) (1-No.12 再掲)

【3. 分散進学について】

No.	意見概要
1	十小学区の中央に中学校区の境界があるところが分散進学について難しいところである。
2	2段階で統合のシミュレーションをしてもらいたい。①十小の小学校区を三中と多中の学区で分け、六小と七小と十小の半分で小学校1校、八小と十小の半分で小学校1校とする。②令和19年頃に六小と七小と十小の半分と三中で統合して小中一貫校とし、八小と十小の半分と多中で統合して小中一貫校にする。(1-No.7 再掲)
3	分散進学を解消するに当たり、各子どもの特性に合わせた学級進学が出来るようにしてもらいたい。(ご意見・ご質問シートより)
4	学区の境界に住んでいる人にとって、進学する小学校が選べるのは安心に繋がる。
5	十小の小学校区を三中と多中の学区で分けると良いのではないか。(意見シートより) (1-No.12 再掲)

【4. その他】

No.	意見概要
1	十小学区については、昭和29年の町村合併、昭和41年のナンバースクールの経緯の中で、多々良、六郷という区分けがある。市内で1町7か村、小学校11校、公民館11館があり、それぞれの地区割りが複雑になっているので整理をすると良いのでは。
2	次回のシミュレーションが具体的なものになると思うので意見が出やすくなると思う。
3	質問 小学校、中学校を統合して何校にするのか。 回答 今の段階では決まっていません。検討委員会で決めていきます。
4	各学校の特別支援学級の人数の現状を知りたい。統合によっては溢れてしまう子もいるのではないか。（意見シートより）
5	学童の受け入れ可能な人数を知りたい。（意見シートより）
6	質問 ・将来年度の見込み人数や割合について、三中の資料は、各小学校の現状の分散割合を見ての見込みなのか。（意見シートより） 回答 ・各小学校の分散割合を踏まえて推計しています。
7	今後20年、30年先を考え、大胆な統合が良いのではないか。（意見シートより）
8	三中和多中を小学校として使い、十小を中学校として使うと良いのではないか。（ご意見・ご質問シートより）

【5. その他】（第1回検討委員会後、検討委員が各関係団体から吸い上げた意見）

No.	意見概要
1	登下校時の安全確保について細やかな検討をしてほしい。
2	子どもたちの教育環境を整えるため、できるだけ早く学校再編を進めるべき。
3	再編のスケジュールや検討状況をできるだけ早く公表してもらいたい。
4	今までの学区を残して分校制度とし、低学年は歩いていままでと同じ学区へ、高学年は合併後の学校へ自転車で通うようにすると良いのではないか。
5	通学の暑さ対策を検討してほしい。
6	跡地活用については、維持管理に費用がかかるという観点から、施設を残すべきかよく精査してほしい。

第2回南地区検討委員会意見集約

【1. 小学校について】

No.	意見概要
1	小学校を統合すれば南地区は小学校 1 校と四中ということになり、緊密な小中連携が期待できるのではないかな。
2	美園小か五小のどちらかに行くことになり、ゆくゆくはスクールバスが必要になると思う。
3	板倉町を視察し、スクールバスの利点を聞けば不安も解消し、明るい未来につながる。
4	五小と美園小が五小校地で統合した場合、これまでなかった六郷地区と赤羽地区の交流が必要になる。校地がどちらになるかわからないが、再編校を支えられる新しい地域を形づくることも学校づくりの課題の一つ。
5	美園小は築年数が新しく学級数が多い。距離的には五小の方が四中学区を中心に近い。人口分布や居住地など、どこに重点を置くかによって校地の決め方も変わる。
6	通学距離や制限等を考えると残せる学校はある程度決まってくる。校数や学級数を先に決め、定員に人数を割り当てるのが現実的ではないか。そうすると通学手段をどう整えるかが一番重要になる。
7	例えば二小地区は商業、五小や美園小地区は農業というように、まち全体として考えて、各地区の特色から検討することも大切だと思う。
8	保護者に話を聞くと、スクールバスの安全管理等の具体的な心配や、再編した他自治体の話を聞いて調査し、広い視野を持って検討していく必要があるという意見が出ていた。

【2. 中学校について】

No.	意見概要
1	四中も一定の段階で再編の検討が必要になる。
2	北地区の二小における分散進学の問題は、二小の在り方だと考える。二小の動きによっては南地区も若干変わる可能性がある。
3	学級数と教職員数がある程度確保し、将来の子どものために体制を整える必要がある。
4	学級数減は教科指導や教職員配置の問題が大きくなる。第一段階で小学校、第二段階で中学校と時期をずらした二段階再編が望ましい。
5	学級減と分散進学のどちらが優先課題かによって進め方の優先順位も異なる。
6	通学距離や制限等を考えると残せる学校はある程度決まってくる。校数や学級数を先に決め、定員に人数を割り当てるのが現実的ではないか。そうすると通学手段をどう整えるかが一番重要になる。(1-No.6 再掲)
7	2 学級になると教員数が減り、他校と掛け持ち等の教員も出てくる。そうならないような人数の枠組で考えると良いのではないかな。

【3. 分散進学について】

No.	意見概要
1	四中学区の二小と六小の児童が、それぞれ北地区と西地区の中学校に行くとなれば、今後の四中の生徒数に影響が出る。
2	分散進学は小中連携が難しい。また、分散進学する子どもは中1ギャップに加えて友達と分かれるという二重の不安があるので、解消することで不安を1つ取り除けるのではないかな。
3	園から小学校、小学校から中学校への進学時に少数派になることを懸念する保護者もいる。
4	自身が分散進学を経験した。保護者としては分散進学で少人数になる学校に通わせるのは心配だが、人間関係が広がるという面もある。

【4. その他】

No.	意見概要
1	66町区を基に距離等を見つつ、逆算して学校数を決めるという両側から検討してほしい。
2	子どもに最善の教育環境を保障することが先。
3	子どもや保護者が安心できる学校を築き、そのための教職員研修を進めていくことが必要になる。
4	多様な子どもへの支援・対応は教職員の工夫や努力で何とか対応しているという切実な声がある。
5	再編校へ通う手段や接続の方法も一体的に設計すると、保護者もより安心して預けられる学校になり得る。
6	単学級になると職員数が減り、子どもへの対応が難しくなる。
7	再編すると広く関係づくりを毎年度変えられるので、人間関係も含めて検討を進めたい。
8	既に単学級のまま何年も経過している学校もあり、そこで卒業した子どももいる。単学級解消にあたっては、再編によって生じる教育面での大きなメリットを見せてほしい。
9	新しい人間関係を構築する能力も教育では必要だと考える。

【5. その他】（第1回検討委員会後、検討委員が各関係団体から吸い上げた意見）

No.	意見概要
1	同一中に進学するなら中学校に小学校を新設してほしい。
2	中学校ベースで小学校を振り分ける考え方で学区の考え方を見直してはどうか。